

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

被告人本人および弁護人竹原茂雄の各上告趣意は、事実誤認、量刑不当の主張であつて、刑訴法四〇五条の上告理由に当たらない。なお、記録に徴するに、被告人が本件犯行に際し、殺意をもつて被害者らを鉄棒で殴打したものであることは、これを肯認するに足り、原判決が本件の量刑として極刑を選択したことは、その犯情に照らしやむを得ないところであつて、当裁判所もこれを是認せざるを得ない。

その他、記録を調べても刑訴法四一條を適用すべきものとは認められない。

よつて、同法四一條、三九六条、一八一條一項但書により、裁判官全員一致の意見で主文のとおり判決する。

検察官 野木新一公判出席

昭和四〇年六月二九日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	横	田	正	俊
裁判官	石	坂	修	一
裁判官	五	鬼	上	堅
裁判官	柏	原	語	六
裁判官	田	中	二	郎